

伝統と技術革新の狭間

前迫 孝憲

教育システム情報学会長，大阪大学大学院人間科学研究科教授

アジア最大、世界 2 番目と言われる台北国際コンピュータ見本市 COMPUTEX TAIPEI の後、科技大楼を訪問した。日本のデータショウ視察団からの建議を受け、1980 年代、ISTEC 情報通信科学展示センターが設置され約 20 年間、中学生を主対象に情報通信の学習舞台となった建物。世紀末、情報産業という従来に無い技術革新分野の台頭と、伝統あるギルド教育のバランスに苦勞したドイツの姿が思い起こされる。

東日本大震災で通信途絶に悩まされた自治体の中には、学校等公共建物の外壁に WiFi のアクセスポイントを設置し無線網等で相互接続、今ではスマホ用に通信会社に貸出し、災害時はオープンな SSID 「SAIGAI」など誰でもインターネットが使えるよう準備済のところもある。技術革新の成果を教室に活かし、伝統とのバランスの取れた教育現場を目指したい。

講演者略歴

- 1976 年 東京工業大学理学部情報科学科卒業。
- 1978 年 東京工業大学大学院システム科学専攻修了。工学博士。
- 東京工業大学勤務を経て、現在、大阪大学大学院人間科学研究科教授。
- 専門は、遠隔学習、ヒューマンインターフェイス。